

平成 28 年度 第 3 回西淀川区教育会議 会議録

1 開催日時：平成 29 年 3 月 10 日（金）午後 2 時 00 分～午後 3 時 15 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 区長応接室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50 音順）

竹本、延原、浜本、森本

（事務局：西淀川区役所）

塩屋区長、橋本副区長、高安教育支援課長、九之池教育支援課長代理

小林教育支援担当係長、若松係員

（教育関係者）

高橋姫島小学校長（小学校幹事校長）、池内西淀中学校長（中学校幹事校長）

4 次第

1. 3Dプリンタ期末報告について

2. 平成 29 年度インクルーシブ教育応援サポーター事業について

3. その他

5 議事内容

1. 3Dプリンタ期末報告について

（区役所）

（1）3Dプリンタ等の購入について

- ・区役所において3Dプリンタ、パソコン、3Dモデル作成ソフト、フィラメントという材料等を購入した。
- ・操作上の疑問について相談いただけるコールセンターも購入条件に入れさせていただいた。
- ・ソフトは既にパソコンにインストールしている。
- ・材料は1巻きで、3cm角のサイコロが80個ほど作れるようである。
- ・総額で57万円程度、3Dプリンタ本体のみであれば20万円程度である。

（2）教職員対象操作説明会

- ・2月9日（木）・15日（水）に教職員向けに操作説明会を開催した。

①3Dプリンタ本体操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社により、本体の操作方法等を説明。

- ・小学校9名、中学校3名、区役所職員8名が参加し、3Dプリンタの出力方法等の説明後、実際に3Dプリンタで出力した。先生方は3Dプリンタが動く様子をのめり込むように見ている。

② 3Dモデル作成ソフト操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社、3Dモデル作成ソフトメーカーのアンドール株式会社により、ソフトの操作方法等を説明。
- ・小学校3名、中学校4名、区役所職員4名が参加し、納入したソフト「ぶろっくメーカー」を実際に操作してもらい、3Dモデルを作成する体験を行った。中には、短時間で複雑な立体モデルを作成する先生もいた。

③ 3Dモデル作成ソフト紹介チラシ

- ・3Dモデル作成ソフトについては、2種類購入している。
- ・今回説明会を実施させていただいたのは「ぶろっくメーカー」といい、「小学校低学年からでも使える」とあるように、ブロックを積み上げていく感覚で操作していく、比較的簡単に慣れていただけるものである。とはいっても、様々な形が作れ、立体感覚と創造性を小さい頃から育むには最適ではないかと考えている。
- ・もう一つの「シェード3D」については、中学校の技術の先生など得意な先生方向けに準備させてもらった。テキスト付のものを購入しているので、どんどん挑戦していただきたいと思っている。
- ・貸し出しを希望する学校については、説明会資料やテキストブックも含め、パソコン、材料等全てセットで貸し出しさせていただく。また、区役所に来て使っていただくことも可能である。

(3) アンケートの結果

- ・今回も参考になったという声を多数いただいて、うれしく思っている。
- ・参加いただいた先生方は、実際子ども達が使えののかということを念頭に置いて説明会を受講いただいたようで、「子ども達はのめりこみそう」「こんな使い方であればできるのではないかなど、積極的なご意見をいただいた。また、研究会で活用に向けてまとめていきたい。
- ・パソコン環境を課題としてあげていただいたが、活用方法を検証したうえ、パソコン教室内のパソコンへのインストールにもつなげていけたらと思っているが、これから検討していきたい。
- ・また、全ての学校に操作説明は難しいが、参加したくても日程的に難しかった先生方もおられるので、マニュアル作りも含めどのようにフォローできるか検討していきたい。

(4) 今後の予定

- 3月 ・操作時に必要な道具であるニッパーなどの購入

- ・研究会協力企業の募集方法を調整
- ・区役所で3Dプリンタのセットから出力までの簡単マニュアルを作成
- 4月以降
 - ・研究会メンバーの募集（企業は継続）
 - ・学校には協力いただける先生を募集させていただく。校長先生でも、その他興味をお持ちの先生でも、どなたが来ていただいてもありがたい。異動などもあると思うが、現在いる先生方含め、新しく異動して来られた先生方の中に興味のある方がいないかぜひ探していただき、お声掛けいただきたい。
 - ・研究会メンバーを優先に貸出を開始。先生方には「何を作ったか」「作成時間はどれくらいか」「何か問題点はあったか」など、課題の洗い出しやモデルケース、マニュアル作成にご協力いただきたい。
- 1学期中
 - ・第1回の研究会の開催

(5) その他

- ・昨日、文部科学省・総務省・経済産業省と教育関連の企業が連携し、プログラミング教育の普及・推進を目的とする「未来の学びコンソーシアム」設立総会に出席してきた。次期学習指導要領改訂の2020年に向けての話を聞くことができ、これから実際に取組が進んでいくことを実感した。プログラミングを学ぶと言うより、プログラミングで学ぶという考え方で当区が取組と一致していると感じた。関西での取組は遅れていると言われているが、大阪市内24区でプログラミング教育に学校とともに取り組んでいるのは当区だけである。いろいろな方に当区を取組を紹介し、好評だったので、これから支援していただけるよう働きかけていきたい。先生方に相談させてもらいながら2020年にスムーズに導入できるよう取り組んでいきたい。

(議長)

- ・今回の説明会には参加できなかったが、参加した先生方が非常に興味をもたれたと聞いている。説明会に参加した先生から報告を聞いておられる校長先生から意見がありましたらお願いしたい。

(小学校幹事校長)

- ・当校からは、視聴覚主任であり、パソコン等が得意で3Dプリンタにも興味がある先生が1回目の本体操作説明会に参加した。
- ・間近で触れるまで分からなかったが、触れてみて初めて分かることがあり、ますます興味を持ったとのことであった。やはり、聞くだけでなく、触ってみることが大事であると思う。私も次の機会があれば参加してみたいと思った。
- ・プリンタが1台しかないことや、パソコン環境が整っていない中で、教育現場にどう活かすかは課題に感じたようである。
- ・学校現場では「プログラミング教育ってなに？」という雰囲気であり、十分に把握でき

ていない。1年前ぐらいに突然話が出てきた。現在、小学校で分かっていることは、プログラミング教育についての絵本があり、例えば、朝起きてから学校に行くまで手順を改めて洗い出すといった内容となっているようである。子ども達は普段から物事を行ううえで、一つ一つ考えて行動しており、それをあえてプログラミングという言葉を使い、学習方法の一つとして学校教育に取り入れていくのだと理解している。

- ・3Dプリンタと3Dモデル作成ソフトは、自分が考えて作成したものが目の前で出力されるので、子ども達は興味を持つと思う。
- ・プログラミング教育という時間割ができるわけではないので、どこかに入れていかないといけない。今後いろいろな事例が出てくると思うが、区の先進的な取り組みはありがたい。

(中学校幹事校長)

- ・学校現場にどう活かしていくかがこれからの課題である。中学校でいえば、技術の時間かと思ったりするが、何を学習の狙いとするのか、子ども達にどういった成果を与えていくのか等が、まだ具体的に見えてこない。

(議長)

- ・プログラミングという教科ではなく、物事の段取りや準備を論理的に学ぶことを授業に組み込んでいくことになると思うが、3Dプリンタを使うとなると少し専門的になると思われる。区としてどう貸し出して行くことを考えているか。

(区役所)

- ・今回開催した説明会に出席した先生の中で、学校での活用をある程度考えている先生もいる。初めてでも操作できるマニュアルを整備して先生方が困らずに学校で使用できるようにしていきたい。4月からを目途に各学校に照会していきたい。

(委員)

- ・PTAにも貸していただきたい。詳しい人もいると思うので、勉強して子ども達や学校にアドバイスできるのではないかと思う。
- ・「プログラミング教育」という名前が難しいイメージがある。言葉を柔らかくしていけば、先生方の難しいイメージもなくなるのではないか。

(区役所)

- ・昨日の「未来の学びコンソーシアム」でも、プログラミング教育は、学校・保護者・行政・企業・地域で一体となって進めていくという意見があり、保護者や地域住民にも詳しい方がおられると思うので、ぜひともご協力していただきたい。

(議長)

- ・今までの話を聞いていると、3Dプリンタを通じて、学校・PTA・地域・企業との新たなつながりが出てきて、地域のつながりが深まるツールとして新しい価値があるように思う。

(副議長)

- ・この会議で一年間議論してきたことを、一般の人にどれだけ興味を持ってもらえるように宣伝できるかが課題である。

2-1. 平成 29 年度インクルーシブ教育応援サポーター事業について（発達障がいサポーター事業からの拡充）

(区役所)

(1) 概要

- ・区長が夏に区内全小中学校を個別訪問し、意見交換を実施した際、サポーター事業の拡充を求める声が多くあったこと、また、障害者差別解消法の施行など国での動きや大阪市としてもインクルーシブ教育を推進していることから、区でもインクルーシブ教育応援サポーター事業として拡充することとした。

(2) 事業開始からの改正の変遷と予算の拡充

- ・平成 25 年度から平成 28 年度にかけて、活動報酬単価や交通費上限の引き上げなど、先生方の意見や人材確保の観点から改正を行ってきた。
- ・今年度実施した区長学校訪問の際も、先生方から対象の児童生徒が増加しているというお話を伺った。また、大阪市全体でインクルーシブ教育の推進が図られていることから、発達障がいの可能性がある児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒も含め「支援を要する児童」と幅広く捉えることとした。
- ・活動単価の改善について、人材確保の観点より、現在の大阪府最低賃金に引き上げる。
- ・校外活動における支援の拡充
 - ①校外活動の交通費上限の引き上げ及び支給対象に施設入館料等を追加
昨年 8 月に実施したアンケートで「交通費の上限引き上げ」「施設入館料などの支援」の要望が多かった。
 - ②校外活動を含めた行事における活動時間の拡大
 - ①と同様、アンケートで要望があった。また、区長学校訪問時にも「小学校高学年以降は、準備から帰り支度まで合わせると 7 時間は必要」等の意見があった。

(議長)

- ・校内活動上限 3 時間というのは週単位か。

(区役所)

- ・1日の上限時間である。教育委員会事務局においても同じような事業があり、そちらは1日上限5時間となっている。区事業分は、教育委員会事務局事業分では賄いきれない時間やスポット利用として活用してもらえればと思っている。

(小学校幹事校長)

- ・小学校としてはとてもありがたい事業である。特別支援教室の児童数に対して、先生の数が足りず、教育委員会事務局事業のサポーターを配置しているがそれでも足りない。
- ・特別支援学級は、保護者からの依頼がないと児童を在籍させることができず、保護者の考え方もさまざまである。
- ・区のサポーター事業は、教室に入ることができるし遠足にもついて行くことができる。通常学級に在籍する発達障がいのある児童は、先生の許可を得ずに急に立ち上がり、いなくなったりすることがあり、注意が必要であるが、担任だけでは手が回らないことがあるので、サポーターがいると安心できる。声かけや見守りが不可欠な中、サポーターがいることで、学校は他の子ども達の指導ができる。
- ・来年度、大阪市全体で特別支援学級が大幅に増加すると聞いているが、教員が足りない状況のようである。サポーターがより多く必要となってくる。いればいるほど安全性が担保できる。ボランティアが働きやすいよう、学校も努力したい。

(中学校幹事校長)

- ・当校も教育委員会事務局事業のサポーターに1名来てもらっている。しかし、1日5時間という上限があるため、6時間目までついてもらうために区事業分を利用している。それによりすべての授業についてもらうことができている。
- ・大人が付き添い、安全確保が必要な生徒もいるので教員だけでは手が回らないことがある。したがって、発達障がいのみではなく対象を幅広くしてもらってありがたい。
- ・保険は入ってもらえるのか。

(区役所)

- ・ボランティア保険に入っている。

(委員)

- ・発達障がいの子どもの通常学級に通わせるか特別支援学級に通わせるか、保護者は非常に悩むことである。学校や他の児童に迷惑がかかるかもしれないが、通常学級に通わせたいという思いもあると思う。
- ・障がいの疑いがあっても、保護者がそうでないと思っている場合もあると思う。デリケートなことなので伝えることは難しい。受けられるサービスを受けた方が子どものためになると思う保護者もいれば、自分の子どもに障がいがあることを認めたくない保護者もいる。学校も苦勞されていると思うので、このような制度があるのはありがたい。

(委員)

- ・「いきいき放課後事業」でも同じような意見が出ていた。ともに学ぶことでよりよい人間が形成されていくと思う。こういった制度は継続してほしい。

(副議長)

- ・気持ち程度のお金に対して、責任が大きいと感じる。発達障がいの可能性のある児童生徒が増えてきており、他人事ではないと思う。自分自身も一度ボランティアとして活動してみたいと思う。

(議長)

- ・インクルーシブ教育応援サポーターとして活動する方達は発達障がい等の知識を持っている方達なのか。

(区役所)

- ・教育委員会事務局事業のサポーターに事前に行われる研修があり、その研修資料を用いて、先生方から区のサポーターにも説明してもらっている。区としてサポーターになる要件としては、理解のある方としており、サポーターの経験があったり大学等で学んだことがあったりする方を選んでもらっている。

(議長)

- ・子どもが何か問題を起こした時に、注意するところと理解を示すべきところがあると思うが、知識を持った方とそうでない方で、対応方法が変わった場合、問題になることはないか。

(区役所)

- ・区としては、今まで問題が起こったという話を聞いたことはない。基本的にサポーター1人で活動することはなく、先生の指示を受けて支援に入ってもらっている。

(小学校幹事校長)

- ・基本的には、何かあった場合は、担任か特別支援の先生に連絡してもらうことにしている。近くにいた子どもが先生に教えることもある。サポーターが子どものことを気にしていると周りの子ども達も気にしてくれるようになる。知識までは求めていないが、穏やかな方に見守っていただけることがありがたい。

2-2. 学校支援サポーターの募集について

(区役所)

- ・発達障がいサポーターに限らず、いろいろな事業で人材確保に困っているという意見があった。

- ・また、教育会議の委員から「募集されていることを今まで知らなかった」「自分が何かできることがあればお手伝いしたいが、どこで募集されているか知らない」といった意見があったことから、区役所でも協力できることはないか検討した結果、ボランティア等の募集について広報紙へ掲載することを考えた。一覧表を作成し、各校希望するボランティア内容にチェックしていただくことを考えている。
- ・学校により違いがあるとは思いますが、ある程度共通する項目に絞らせていただきたい。
- ・広報紙に掲載するには2か月前には登録しなければならないので、タイムラグがある。ただし、募集情報を随時見いただくことや、学校独自の取組で人材募集されていることもあると思うので、区ホームページにも掲載し、また、各校ホームページへのリンクも貼らせていただき、少しでも多くの方の目に触れることができるよう検討している。

(中学校幹事校長)

- ・基本は無償か。

(区役所)

- ・有償無償問わず幅広く募集し、各学校の状況に応じて決めていただきたいので、文言は掲載しないことを考えている。

3. その他

(区役所)

- ・前年度紹介したが、区役所において、図書を通じて多世代が交流する事業を実施しており、区内の図書環境の充実に向けて取り組んでいる。イベント等には、図書に興味のある方は参加されるが、あまり興味のない方も含めて幅広く啓発していく必要があると考えている。昨年度の教育会議でも、子どもが小さい時から本に親しめる家庭環境が重要で、幼少期の早い段階から親子で図書に親しむことを啓蒙するため、区役所で実施している乳幼児健診等の際に、図書に関するチラシを配付してはどうかという意見があったので、区役所での健診等の際に配付することを考えている。

○次回日程について

(区役所)

- ・次回会議は、6月頃の開催を予定している。